

済州オルレとその福山市への適用



澤田結基・林聡太郎・松浦正伸

済州オルレ



- ・済州島を周回するトレッキングコース
- ・全26コースあり， 1つのコースは概ね10－20km
- ・個人（ソ・ミョン スク氏）が考案， 社団法人が運営
- ・韓国のトレッキングブームの火付け役
- ・2007年にコースを設置 年間利用者のピーク約119万人



西帰浦にあるオルレセンター

済州オルレの現地調査 コース8 ウォルピョン デピョン 月平ー大坪 19.5km



在日同胞の功德碑



オルレコースを示すリボン



スタンプを入れたカンセ（馬）

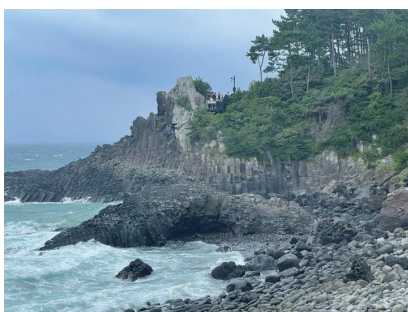


農村集落を歩く



海岸線沿いの歩道

済州オルレの現地調査 コース8 ウォルピョン デピョン 月平ー大坪 19.5km



柱状節理の海岸（東尋坊に類似）



柱状節理の案内所（ジオパーク）



ホテルの集まるパシフィックランド（約9km地点）で大雨のためリタイア

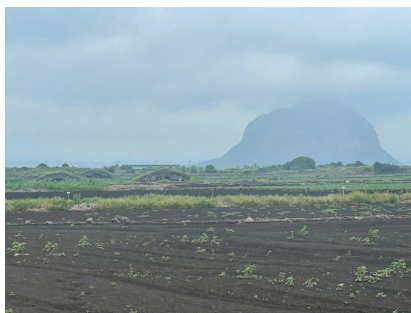
済州オルレの現地調査 ファスン 和順ーモスルポ 17.5km



ルートを示すカンセ



旧飛行場の施設跡



松岳山（ソンアクサン）

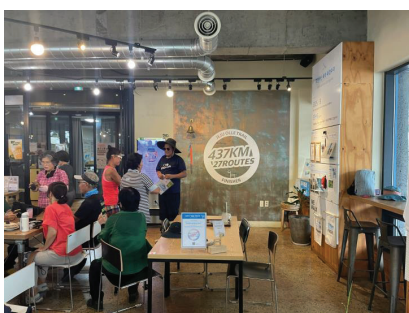


旧日本軍の格納庫



多言語（韓英中日）の解説板

済州オルレ 事務局へのインタビュー（9月14日）



西帰浦 オルレセンター内部
完歩者の記念写真ブースがある



項目	回答の概要
利用者の満足度を上げるための 方策	クリーンキャンペーン実施 ごみ拾いでスタンプ・バッジの提供
ボランティアについて	ボランティア約3000名 60-70%は韓国本土，残りが済州島民 オルレを通じて文化・歴史を学べるアカデミープログラム ボランティアによる子どもイベントの開催
大学とのタイアップ	済州国立大学とのタイアップ オルレを歩きながら，教員が学生の 人生相談や進路相談にのる（単位認定あり）
運営組織	理事会は10名で，会員が意思決定に関わる 外郭団体が4つあり，清掃活動の団体や完歩者の団体が含まれる
運営資金	オルレのサポーター制度の会費（2000名） 企業サポーターから協賛金を得ている
オルレと地域社会	済州オルレが火付け役となり国内にトレッキングブームが起きた 山岳地帯はすでに観光地化されており，これ以上の開発によって 問題が生じる懸念があるので，海岸線を中心にオルレを設定した オルレ沿いには利用者向けのカフェ，民宿が増えている オルレができたことで 観光客が増加し，市場が活性化 した 市場の名称が「毎日市場」から「オルレ市場」になった
海外展開	九州オルレ，宮城オルレ は実績もあり行政も協力的で，うまく いっている モンゴルにもオルレがある。観光の国際協力機関（KOICA）のサ ポート事業になっている 3コースあるが，運営はまだうまく いっていない

済州オルレ開設後の済州島の変容（小笠原・中嶋，2015）

- ・観光客数（国内，海外）が大幅に増加 2013年の国内観光客数（852万人）の14%がオルレ利用
- ・オルレ利用者へ向けた宿泊施設，カフェが創設 これまで観光産業とは無縁の地域にも拡大

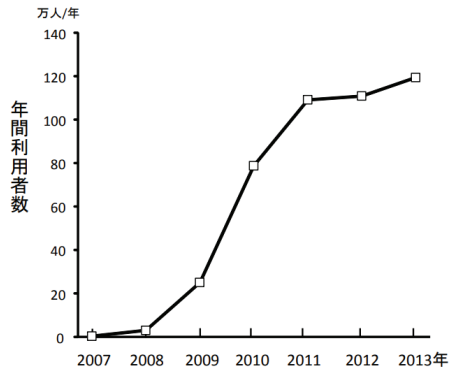


図6 済州オルレの年間利用者数の推移

（出所）사단법인제주올레도움말자료실：제주올레 월별이용객현황（2011～2014.03）.pdf³⁾をもとに作図.

小笠原・中嶋（2015），民間非営利団体が創設し運営管理する済州島周回長距離トレイル「済州オルレ」徒歩旅行ブームの実態，スポーツ医学研究 25 p61-73



オルレを名称にとりいれた観光市場（西帰浦市）

九州オルレ 南島原コースの現地踏査（11月17日）



九州オルレ

- ・済州オルレの制度を導入し，2012年に開設
- ・九州の各県に分散して21のコースが設定される
- ・韓国人観光客の利用が多いが，日本人観光客の利用も増加※



※日本経済新聞 2015.6.17 九州オルレ」観光客魅了 韓国発祥のトレッキング

九州オルレ 南島原コースの現地踏査 南島原市の担当者インタビュー（11月17日）



ルートを示すカンセ



丘陵地の畑にルートが通る



アコウの巨木（天然記念物）



海を見渡す展望台

項目	回答の概要
オルレ設置の背景	島原半島ジオパークの取組としてオルレ設置を検討 ジオパーク推進協議会会長（市長）が 済州島を訪問 ジオパーク事務局のKさんがコース選 定のため歩き回り住民とも交流、オル レ設置への理解を得ていった
オルレ設置の効果	オルレ目的の韓国人、日本人観光客が 増加
地域住民の反応	当初は外国人観光客に対して警戒心が あったが、交流機会が増加するにつれ て好意的になっていった
管理体制	市がコースを整備・管理する 草刈り はシルバー人材センターへ委託 イベント は観光協会が運営、高校生が運営 ボランティアとして参加

トレッキングルート整備の候補：鞆の浦

文化遺産と自然景観を観光資源に持つが、双方をつなぐ仕掛けに乏しい

1930年代 瀬戸内海国立公園への指定（1934）、仙酔島遊歩道の整備
1940年代（戦後）鞆町による鞆と阿伏兔をつなぐ遊歩道の整備
2017年 重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）指定



福禅寺対潮楼（スタート付近）



阿伏兔の遊歩道からみた内海大橋（ゴール付近）

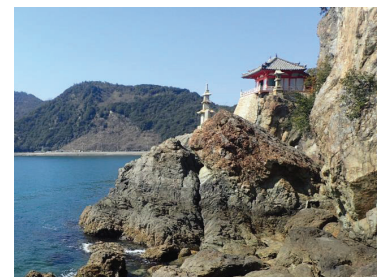
鞆ー阿伏兎ルート 鞆の町並みと瀬戸内海の多島海景観の両方を楽しむ



全長 6.3km
最高地点 180m（海後山）

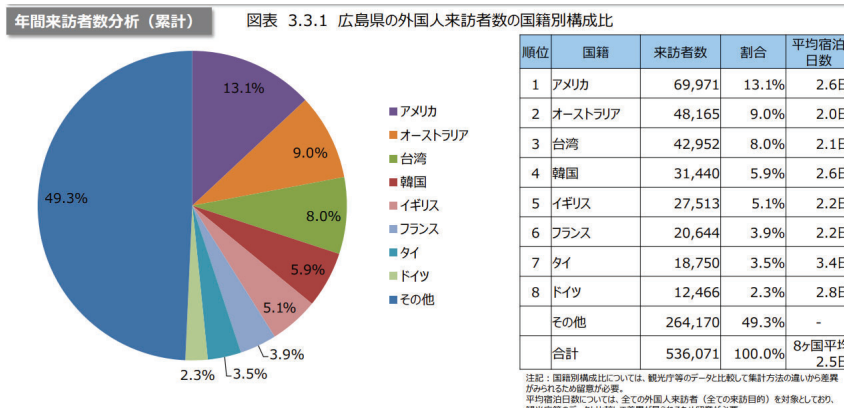
主な通過地点

- ・ 鞆港バス停（スタート）
- ・ 鞆港常夜灯
- ・ 淀姫神社
- ・ 平漁港
- ・ 大室浜
- ・ 海後山
- ・ 阿伏兎灯台
- ・ 阿伏兎観音（ゴール）



まとめートレッキングルート整備の必要性

- ・ 済州オルレは済州島の観光形態を長期滞在型へと大きく変容させた
- ・ 済州オルレのコースは農村や自然海岸など多様な景観を歩きながら、地域の自然・歴史・文化を学べるよう設定されている
- ・ 九州、宮城県にもオルレコースが設定され、訪日観光客、国内観光客の増加に寄与している
- ・ 欧米豪、韓国からの観光客割合が高い広島県、福山市においてトレッキングルートの整備は、宿泊日数（滞在日数）の増加に寄与する施策となる可能性がある



鞆・海後山の遊歩道

図表：せとうちDMO（2018），平成29年度広域観光周遊ルート形成促進事業「外国人観光客の動態調査（せとうち・海の道）」資料より抜粋